

令和3年度第2回瑞穂町商工業振興推進協議会会議録

日時 令和3年9月8日(水) 午後6時30分から午後8時40分まで

場所 瑞穂町役場4階 全員協議会室

出席者

【会長】松本 祐一

【副会長】高水 英夫

【委員】岡本 日吉、石原 浩一郎、布田 徳雄、佐藤 雅夫、中村 博隆、
海和 将也、江川 淳一

傍聴者 なし

配付資料

資料1 瑞穂町産業振興ビジョン・工業振興計画推進状況

資料2 瑞穂町の産業振興に関するアンケート調査【結果報告書】概要版

資料3 瑞穂町産業振興ビジョン・瑞穂町工業振興計画策定にかかるヒアリング調査のまとめ

資料4 瑞穂町の現状について

参考資料1 瑞穂町の産業振興に関するアンケート調査【結果報告書】

参考資料2 瑞穂町の産業振興に関するアンケート調査（自由回答まとめ）

会議内容

1 開会

2 議題

(1) 各種調査結果の報告について

松本会長 では、次第に沿って進めさせていただきます。

(1) 各種調査結果の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

- 事務局 資料1について説明
- 松本会長 この件について、ご質問・ご意見等あればお願いします。
- 岡本委員 進捗状況を報告していただきましたが、総じて具体的なことにほとんど触れていません。進められなかった点はどこか、それをどう改善していくかという部分が報告されていないと思います。
- 松本会長 進捗の整理の仕方ということでしょうか。
- 岡本委員 実績の数値も出されておらず、また、できなかったものについて今後どうしていくかという文言もありません。本来の進捗状況の示し方とはかけ離れているような気がします。
商工会の工業部会がこれをしたいと言っても、行政からは予算がないためできないという話になることが多いです。それはできないことの原因になるのでしょうか。ファントム工場に関しても、商工会の工業部会は参加企業の顔としての機能を担っているため、予算内で今後どう展開していこうかと話し合っている最中です。工業振興や産業振興の計画をつくるのであれば、実際の行動が伴うような内容にしていきたいと思います。
- 松本会長 ありがとうございます。この資料には、当時計画していたものが達成できたかどうかということだけが書かれているのだろうと思います。委員ご指摘のファントム工場にしても時代や状況が変化する中、意味合いも当時からは変わってきており、恐らくそういうことはいくらでもあります。資料には結果しか記載されていないので、逆にこの会議で今後の方向性についてのご意見をいただければと思います。
- 中村委員 総括の文章を読んで感じたことが2点ほどあります。1点目は行政の継続性の問題ということで、平成25年から今日に至るまでに担当者が替わっています。したがって、ビジョンを具体化するための十分申し送りがされているかどうかというのが非常に疑問です。2点目は担当者の顔と名前が出てこないことで、無責任に計画

を作っているような感じがします。そこを改めていく方がよいのではないかと私は思います。

松本会長 ありがとうございます。

佐藤委員 行政側をフォローするわけではありませんが、現行計画策定時はあえて担い手を限定しないような形で文章を作成されていたように記憶しています。その目的が達成されなかったのが今このような状況になっているという意味でもあります。

1点質問ですが、創業者向けセミナーが開催されましたが、その参加者の中で実際に創業した方はいらっしゃいますか。

事務局 確実な情報ではありませんが、セミナー開催時に連携していた金融機関からは町外で創業した人がいるという話を聞きました。

佐藤委員 その人が瑞穂町で創業しなかった理由はわかりますか。

事務局 創業者向けセミナーというのは、創業を希望する方が実際に創業した方から体験談等を聞くもので、具体的に内容を詰めていくものではございません。ただ、こちらとしては当然瑞穂町で創業していただきたいと思っているので、セミナーでその旨のお話はしましたが、場所の選定等のフォローまではできませんでした。

佐藤委員 企業立地マッチングに関しては実績が0だったということですが、問い合わせさえもなかったのですか。

事務局 問い合わせはありましたが、希望する不動産がなかったため、実際に契約に至った案件はございませんでした。

松本会長 他にはいかがでしょうか。

布田委員 創業者向けセミナーには、どのくらいの応募がありましたか。

事務局 具体的な資料は持ち合わせていないのですが、4～5人だったかと思います。

- 布田委員 その人数にとどまったのであれば、PRの仕方を再考していく必要があると思います。
- 事務局 当時は町のホームページや広報、連携している金融機関を通して周知等を行いました。
- 布田委員 創業には土地が必要ですから、もう少し町の不動産業者と連携を密にし、情報を吸い上げるべきだと思います。
- 事務局 おっしゃるとおり皆さん空いている土地はないのかと聞かれます。町で持っている工業団地等もありませんので、不動産業者と連携する形でこのマッチング事業を進めているところです。ただ、過去にあったマッチングの申請で不動産業者に照会しても、土地がないという回答しか返ってきませんでした。不動産業者との関係をもっと密にするとともに、情報を持っている金融機関とも連携していく必要があると考えています。
- 佐藤委員 前回の産業振興ビジョンにおいては観光業を第4の柱に据えるよう決めたと記憶しているのですが、この資料にはその取組が全く出ていません。
- 事務局 回答になっていないかもしれませんが、今後の計画策定にあたっては実現可能なものをつくることに尽きると思います。また、進捗管理ということで最低でも年1回皆さんに集まっていただき、進捗状況や達成状況等の確認をしながら必要に応じて方向修正も実施していきたいと考えております。
- 高水副会長 個人的な考えですが、第一に町の産業振興に対して真剣に取り組む姿勢が見えてこないと思います。また、瑞穂町は産業を振興させるのが難しい地域だと私は思います。土地はそれなりにあっても使えない場所ばかりです。この場に町議会の議員も呼んで産業振興に関する意見を聞きたいと思っています。瑞穂町には1,600の企業がありますが、そこが町の産業振興に参加してくれるような形に持っていかなければ発展しません。

中村委員 資料4の6ページに2015年時点での瑞穂町の地域経済の状況が載っています。これを見ると瑞穂町は決して劣ってはいませんが、所得の3分の1が町外に流出しています。また、1ページを見ると人口が2040年には28,000人になることがわかります。そういった状況をマクロ的に眺めながら実力相応のことをコツコツと行っていく、そういう小さな努力を積み重ねていく姿勢が大事です。先進的な自治体を真似るのは構いませんが、むやみにいいところ取りをする必要はありません。瑞穂町の状況をよく眺め、小さいことから一つひとつ積み上げていくというのが瑞穂の風土に合っていると私は思います。

松本会長 先ほどご指摘いただいたとおり、施策の主語を決められなかったというのは反省点だと思います。ただ、結局は本気を出す人が現れない限りなかなか難しいというのは、恐らく時代が変わっても一緒だと思います。そこは考えていくしかないし、こういった場にいるいろいろな人が参加できるような雰囲気や仕組みをつくるしかありません。ただ、おっしゃっていたようにできることをきちんと積み重ねていくというのは非常に大事だと思います。他にも資料がありますので、それについて事務局より説明をお願いします。

事務局 資料2～4について説明

(2) 次期産業振興ビジョン、工業振興計画の策定に向けての意見交換

松本会長 ご説明いただいた資料を見ながらご意見をいただければと思います。

岡本委員 瑞穂の生産高が高いことは事実ですが、瑞穂町に事業所がある大手企業が相当な割合を占めています。ただ、本社機能は瑞穂町にはありません。町としてはその辺りどう認識されていますか。大手企業の従業員の方が瑞穂町に住んでいる割合というのは少ない傾向が見受けられます。本社機能が町にない企業と町に置いている企業との生産高の比較等はされていますか。

- 松本会長 大手企業の瑞穂町に対する影響力や現状における関係性はどのようなかというところをまず教えていただければと思います。
- 石原委員 大手企業で、防衛も絡んでくるため秘密保持を厳しくされている会社です。直接取引をしている町内の製造業者はかなり少ないと思います。瑞穂町内に大手企業がある関係で製造業としての売上自体は伸びていますが、町内の製造業者が直接的に関わっている比率は低いと思われます。以前、グループ企業との取引があったご縁で大手企業の工場を見学に行こうという話も出たことがあります。
- 松本会長 町との関係性についてはいかがですか。
- 事務局 大企業ですので当然税収面や雇用面では重要な役割を担っているとは思いますが、日頃から町と連携しているということは特にないと認識しております。
- 布田委員 数年前に商工会の西多摩地区の正副会長で大手企業の工場の視察に行ったことがあります、きっかけがあれば何かを一緒にしたいというお話を聞きました。関係性をつくっていくことは可能ではないかと思います。
- 松本会長 私は昭島市の産業振興計画にも関わったのですが、昭島市には観光まちづくり協会というものがあって、まち歩きの中に企業の見学を入れてその企業のことを知ってもらう取組を行っています。昭島市もこれまでは大企業との付き合いをしてこなかったので、振興計画の中に大企業と市の連携を入れたという経緯があります。そのように大企業と積極的に関係を築いていくというのもできることの一つかと思います。
- 中村委員 数年前の産業まつりにおいて、大手企業の製品を子どもたちに見せたことがあります。その際、子どもたちが工場見学できないかという話もしました。セキュリティは非常に厳しいのですが、事業所を瑞穂町の観光資源として利用する価値はあると思います。

- 松本会長 他のことで何かありますか。
- 布田委員 産業振興についての予算取りが少ないのではないかと思います。瑞穂町の一般会計予算は130億円ぐらいだったと思うのですが、最低でもそのうちの1%は予算化しないと、いろいろな施策を実施できなくなってしまうと思います。
- 事務局 毎年予算を組む中で必要性は主張しておりますが、どのような施策を行うかということが先にあってこそその予算取りになります。
- 佐藤委員 資料4の5ページに観光入込客数及び行祭事・イベント入込客数というものが載っていますが、どのように数えているのですか。この人数を見ても観光客が増えているかどうかわかりませんし、この数字はどこから取ってきたのかとも思います。
- 事務局 西多摩地域広域行政圏協議会で出されている報告書から引用したものでございます。
- 佐藤委員 こういう会議をすると、観光で町外の人に来てもらいたいのか、それともイベント等で町民を満足させたいのかという話がいつも入り混じってしまいます。私としては町外の人に来て町にお金を落とすとしていくことが大事だと思います。このグラフを見ると産業祭があった11月のところで人数が跳ね上がっており、よそから人がたくさん来たのかという発想になりますが、実際は地元住民が回っているだけでしょう。観光やイベントで町外の人を集める効果があるのかということを知りかけたのですが、町外の人に特化したようなグラフがないので、それが少し残念です。
- 松本会長 そもそも観光の統計は正確なものはあまりなく、入込客数というのは恐らく積み上げですよ。
- 事務局 そうです。イベントの場合、面積当たりにもどのくらいの人が入られたかを推計して出すような形になっております。日帰り客というのは、恐らく町内のいくつかの施設をピックアップし、そこに何人来られたかを集計したものだと思います。

報告書の原典を確認させていただきましたが、調査員を配置して目視で来場者数をカウントしているのみで、来場者の居住地が載っているデータまではありませんでした。

中村委員 瑞穂の地の利を生かした新しい観光事業や観光資源の開発をすればどうかと思いますが、東京都心から40km圏内なので、狭山丘陵の周辺を再開発し、キャンプ地の構想を立ち上げてはどうかと提案します。土地利用に関する規制や条件があるので簡単にはできませんが、ファミリー層が自然環境の中で楽しめるキャンプ地というものを開発してはどうかと思います。それはこれからの雇用や地域ブランドの販売にも通じます。ただ、これは瑞穂町単独ではできないので東京都とアライアンスを組み、行政主導で新しい土地利用のプレゼンテーションをしてはどうかと思います。

松本会長 土地利用というのは、いろいろな意味でネックになります。民間ではできないところでもありますので、町が働きかけていく必要性があると思います。
まだご発言のない委員さん、いかがでしょうか。

江川委員 瑞穂は工業でうまく発展し、その中で大手企業が核となって高収益を上げているイメージがあります。防衛関連の施設もありますので国との関係構築も可能かもしれません。周辺に高付加価値の企業を誘致できるような対策が必要です。
“東京都”というブランドを生かせないかと思います。うまく使えそうな気がします。そういう発想でものを考えていくとヒントが出てくるのではないかと思います。

海和委員 資料1の推進状況について皆さんからいろいろなお話がありましたので、そのことを踏まえて手直ししていただければと思います。理想だけではなく身の丈に合ったものというお話もありましたので、先ほどの大企業の工場見学や土地利用を含め、まずはできるところからと考えております。
予算の話も出ていましたが、やはりある程度の予算がなければ動

けません。先ほどおっしゃっていたように、産業振興に関しては1%の金額を目標にという感じで話を持っていければと思います。

松本会長 ありがとうございます。前回の計画策定時と大きく変わっているのは、やはりコロナ禍ということですね。観光にしても、これまではとにかく大勢の人を集めればよかったのですが、現状はそういうことが気軽にできない世の中になってしまいました。今後の見通しもまだ立っていないため、ウィズコロナの視点で観光のことを考えていかなければならないと思います。

これまでお話しいただいたことを私なりに整理すると、皆さんの共通点としては、実行可能で検証もしっかりできる計画にしようということだと思います。予算の話も出ましたが、限られた予算の中で優先度を付けていくことが必要です。1%にできればよいのですが、産業振興においてはここに優先的に力を入れていくという話をきちんとすれば交渉の余地があると思います。土地利用の話も出ていました。民間だけではどうしようもない部分もありますが、場合によっては東京都や国と一緒に考えていくような計画を立てる必要もあるかと思っています。大手企業の話も出ましたが、事業所同士でももう少し実質的な関係性を築いていくことを考えてもよいかもしれません。

これまで出ていた内容以外で何かございますか。

中村委員 この協議会の委員名簿を見ると所属が工業、商業、観光となっています。ここに農業委員は入らないのですか。

事務局 本協議会とは別に東京都の職員、農業委員の方、新規就農者の方、ベテランの農家さんで構成されている地域農政推進協議会というものがございます。その地域農政推進協議会でもこの産業振興ビジョンについての意見を伺います。

岡本委員 課題ごとに分科会のようなものを設け、本気で取りまとめをしていくメンバーをそろえるという動きはありませんか。年に4回程度の協議会で何ができるのかと思います。

中村委員 それはとても難しいことだと思います。あくまでこの協議会は町長の諮問機関であり、我々が自主的に組織したものではありません。“D o”の世界に入り込んでしまっただけでは、委員としての役割が重すぎてとても担えないと思います。

岡本委員 委員が分科会をつくるということではありません。我々の提案や問題提起に対し、結果が出るところまで引っ張られるようなものを行政側につくっていただきたいということです。

松本会長 本気で瑞穂町を何とかしたいと考えている人が関わるのが最善の策ですが、そういう人を発掘し育てなければ、いつまでも“D o”の人がいない状態で、町の持続可能性に危機感が生まれます。皆さんはそれぞれネットワークをお持ちですので、“D o”の人を探し出して連れてきてほしいですし、それがこの場にいる委員としての役割だとも思います。

岡本委員 私は結構長い間こういう場に参画させていただいており、ワークショップにも参加したことがあります。そのワークショップに昔はいろいろな人が本気で参加していましたが、そういう人たちがどんどんいなくなってしまうました。今ワークショップをしても、役場の人や商工会の職員が8割を占めます。そして結論が出ないような話をずっと繰り返しているだけなので、本気度のある人はつまらないと感じていると思います。行政にも本気度が問われています。

松本会長 まさに、その本気度を見せるのが誰なのかというところですよ。行政が本気にならなければ誰も振り向かないと思います。

高水副会長 この協議会のメンバーに若い人も女性もいません。これから将来を担っていく人に参加してもらわないことには会議の意義が薄れていきます。

町が商工会にもう少し力を入れて、町と商工会がさらに連携すれば、もっと多くの事業者の方に商工会を利用していただけるようになり、それが産業振興につながると思います

松本会長 次代を託す若い人や女性がいなくても確かに問題で、会議体としてそこを変えていく必要があります。
分科会的なものを行い、いろいろな人を巻き込んでいければとも思います。実際のところ、どこまでできるかわかりませんが、この会議体としてはそういう気持ちや姿勢であることを示していきたいですね。
では、本日の議事はこれにて終了となります。

(3) その他

事務局

(次回の日程等の説明)

3 閉会

松本会長 これをもちまして、第2回瑞穂町商工業振興推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。